

夢のつばさプロジェクト 2012 冬キャンプ学生報告

キャンプも今回で5回目を迎えました。このキャンプの一番の目標は子どもたち同士の関係性を深めることでしたが、ほぼ成功の内に終えることができたのではないかと一同充実感を感じています。

一度来てくれると、その子どもはほぼ全員、再び参加してくれるのが「夢のつばさ」キャンプです。今回も半分以上が参加経験のある子どもたちでした。長期的な活動を行う中で学生は入れ替わりがありますが子どもたちはありません。彼らにとって夢のつばさキャンプが年 2 回の恒例イベントになり、くつろげる場として愛着をもって参加し続けてほしいと考えて、ゆとりを持った企画にすることを心がけて臨みました。

■ キャンプ実施内容

日時：2012 年 12 月 24 ~27 日

会場：(株)ブリヂストン保養所 軽井沢第一山荘

活動日程

	24 日	25 日	26 日	27 日
7:00		勉強	勉強	閉会式
8:00		朝食	朝食	
9:00		自由時間	茶道企画	
10:00				
11:00				
12:00		昼食	昼食	
13:00	開会式	クリスマス パーティ 準備	かるた 企画	
14:00	軽井沢 銀座			
15:00				
16:00				
17:00				
18:00	夕食	夕食	夕食	
19:00	自由時間	クリスマス パーティ	感謝企画 準備	
20:00				
21:00				

◇24日◇

開会式にてアイスブレイクを行った後、当初は室内でレクリエーションの予定だったが、元気があり余っていたので「軽井沢銀座」という土産品の店が並ぶ通りに出かけ、子どもたちが各々の小遣いでお土産を購入。保養所に戻ってからは入浴と夕食の後、自由時間。

◇25日◇

食事前にセミナー室にて勉強。子どもは持参した宿題を行い、学生が質問に答える。子ども一人に対して学生が一人以上つく。



午前中は保養所から徒歩10分程度の矢ヶ崎公園で遊ぶ予定だったが、雪が積もっていたため靴が濡れてしまうことを考えて中止。保養所内で自由時間とした。

午後は、夜に行われるクリスマスパーティのための準備を子どもたちと一緒にいった。小学生は電車移動して中軽井沢駅近くの軽井沢町中央公民館にてクッキーをつくり、中学生はパーティの会場であるセミナー室で折り紙などを使って自由に飾り付けを行った。小学生が夕方に保養所に戻り、全員でクリスマスツリーを飾り、ライトアップした。その後、入浴と食事を経てクリスマスパーティを開催。

クリスマスパーティはクリスマスグッズを身につけて大変盛り上がった。アカペラグループ DDF singers がミニ公演。そののち、サンタ役として吉田たかよし氏が登場してプレゼントを配った。ミニゲームののち、アカペラの方々のリードのもと全員で「翼をください」合唱。



◇26日◇

食事前の勉強は前日通り。

午前は軽井沢町中央公民館に全員でバス移動。協力者の方々（松本ご夫妻とご友人3名）のご指導で茶道体験を行った。いつもは落ち着かない男子がきちんと座って楽しんでいて、

ご指導下さった方たちも喜んで下さった。午後は公民館内の体育館で「かるた企画」を行った。かるた企画ではキャンプ参加者の子どもと全員の写真で 50 枚の札を用意し、子どもたち皆で読み札を考え、さらにそれを使って実際に遊ぶというものであった。遊び方もただのカルタではなく、大きな紙に印刷して体育館内に散りばめて走って取りに行くという運動要素の入ったもので大好評だった。保養所にバスで戻ってからは基本的に自由時間。その中で中高生以上中心に、子どもたちで保養所の管理人さんへの感謝のメッセージカードを作成した。翌日の閉会式で渡すためである。



◇27日◇

荷物をまとめ部屋を片付けて閉会式。恒例の 4 日間を振り返るスライドショー上映と「約束カード」に全員が夏キャンプでの再会までの約束を書いた。最後に、前日夜に子どもたちが準備した写真付きのメッセージカードを管理人さんへサプライズプレゼント。子どもが全員前に出て、代表の高校生が堂々と挨拶を述べた。

■キャンプを終えての感想と課題

・子ども同士の関係性が深まった。「横」も「縦」も。

学生が間に入らなくても子どもたちだけで楽しめるまでになった。良い先輩・後輩関係も見えてきた。

自由時間に重きを置いた今回は成功だったと思う。企画が目白押しなのではなく、それぞれ親戚の家に遊びに来たような感覚で、部屋でゆっくりした時間を過ごすことが「夢のつばさ」らしい企画なのではないか。子どもたちも自由時間を求めている。

・ゲストが関わる企画の成功

今回は早い段階でゲストの方の決定がなされ、打ち合わせも直接お会いして十分できた。そのためお互いよく理解し合ってスムーズに取り組めたと思う。今後も早い段階（遅くともキャンプ 2 か月前、可能ならば 3 か月前）までに、ゲスト（あるいは企業など）に関わ

って頂く企画は日時まで決定されていると好ましいと考える。

・学生間に「夢のつばさ」の3年後、5年後を考える意識が生まれた
会議の場で積極的に夢のつばさの将来を考える場が設けられたため、震災直後でなくなった今と将来において、「夢のつばさ」が出来ることは何かを考える意識が生まれてきた。

・(株)ブリヂストン社保養所の管理スタッフ
には、非常に行き届いた対応を頂いた。食事も好評だった。またフレッシュ・デルモンテ・
ジャパン株式会社よりパイナップルをたくさん
いただき、料理長さんがデザートを工夫してく
ださってとてもおいしかった。



【今後の課題】

・中高生の力を活用する企画

今回は小学生と中高生をあえて分けた企画を初めて盛り込んだ。中高生には、中高生同士あるいは学生との落ち着いた時間の方が楽しめるのではないかとの判断である。これについては、中高生を企画側に引き入れて、積極的に小学生にかかわって徐々にキャンプをリードできるようにするというやり方が「夢のつばさ」らしいという意見もあり、検討していきたい。

今後、こういった企画の量と質の向上が求められる。子どもたちが成長し中学生以上が楽しめるためにもキャンプの形は少しずつ変わっていく必要がある。

・参加者の体調管理について

小学生1名が、クリスマスパーティ後、胃腸炎の症状を訴えて3日目の企画に参加できなかった。感染症とも異なる様子でストレスが重なっていたのかもしれないが、それに気づくことが難しかった。こうした状況下の対処は難しいと考えられるが、他のキャンプ団体のノウハウも伺いたい。

また、何人かの学生が後半に熱を出して、キャンプ担当の分担の変更を余儀なくされた。学生自身の体調管理意識の向上も求められる。キャンプ参加直前の生活や、部屋の温度や子どもの服装まで細かな気遣いをさらに意識づけしたい。

・安全第一のための注意点

外を皆で歩くとき、お風呂、さらにエアコン不調により急遽使用した灯油ストーブなど、子どもの安全にかかわるところでひやりとする場面が見受けられた。今後は、キャンプ前に、危険が想定される点のリストアップとその対応を学生のしおりに載せて、事前周知す

ることが求められる。

- ・学生執行を次世代へつなぐ

学生が毎年入れ替わるので、キャンプの準備や当日の運営が出来るように下の学年につないでいかねばならない。

しかしながら準備段階も当日も2年生だけで進めてしまう場面が少なくなかった。そのため1年生も「お客さん意識」がぬぐい切れていない部分もある。

今後はマニュアル化を進めることはともかく、最高学年の意識改革と下の学年に当事者意識をもたせること、裁量をもたせてのトライアルなどにも取り組みたい。

- ・備品や荷物の場所と管理

キャンプで使用した備品が溜まっていくが、置いておく場所も少なく、またリスト化もされていない。場所の確保を先生方と相談したい。また、備品係も設置しリスト化に取り組みたい。

- ・会計のプロセスのマニュアル化

これまで会計担当を設置していたが、今回、学生代表の不備があり会計が後手になってしまった。企画費の決定方法なども大人スタッフと確認したい。

- ・大人スタッフとの定期的な会議

1~2ヶ月に1回程度、学生中心メンバーと大人スタッフとの定例会議があるとよいのではないだろうか。進捗の共有、数年スパンの今後の活動についての話し合い、学生運営の課題の共有など出来ればさらにスムーズに運営できるかもしれない。

■今後に向けて

このキャンプで見えた、子どもたちの横と縦のつながりの強まりは、これからの「夢のつばさプロジェクト」の未来を予感させてくれました。「キャンプは7泊くらいがいいよ！」と子どもたち同士で言い合っていたことが何よりうれしく、現在の良い関係性の中に、次々に新しい参加メンバーが馴染んでいってくれればと思います。互いの安心感や信頼感を土台として、子どもたち同士でも将来の進路を一緒に考え、共に応援しあう場になるよう、こうした認識を学生たちが継承し、努力をつないでいきたいと思っています。

学生代表 東京大学理科一類 2年 武井聡